

# 防コミの歩き方



## ようこそ!焼津市港第23自治会様 入江地区防災福祉コミュニティ

～ 津波が来る来る いつか来る

備えあるから大丈夫

みんなで声かけて 湊川

公園目指して急ぎます♪～

「炭坑節」のメロディーに乗って登場したのは入江地区防災福祉コミュニティ副委員長の平石さん。三味線にシルクハットで、津波の啓発のために作った替え歌を声高らかに歌われました。

2月9日、兵庫区の入江地区防災福祉コミュニティが静岡県焼津市の港第23自治会(自主防災組織)の方々をお迎えした、津波対策についての意見交換会での一場面です。



兵庫区といえば、神戸市内で最も津波浸水想定区域が広い行政区で、入江地区防災福祉コミュニティも、その大半が津波浸水想定区域となるため、日頃からさまざまな防災活動に取り組んでおられます。津波の際は湊川公園へ水平避難することがまず第一ですが、逃げ遅れた場合など丈夫な建物の3階以上に避難せざるを得ない状況も予想されます。そのため昨年度は地元の企業のご協力のもと、要援護者の避難支援訓練を含む、津波避難訓練を実施しました。

静岡県焼津市は、駿河湾に面しており、今回来られた港第23区自治会の方々も特に津波についても高い関心を持たれています。南海トラフ巨大地震に伴う津波が発生

した場合、焼津市では津波高さ10メートル、津波到達時間2分という深刻な想定となっているため、行政や自主防災組織でもさまざまな対応策をとられています。

このようにお互いの取り組みを情報交換しましたが、なかでも、入江地区防災福祉コミュニティの方の阪神・淡路大震災の体験談では、焼津市の方からは「生の体験談を聞くことができて有意義であった」「実際に震災を体験された方々のお話には説得力があった」とのお声もありました。

兵庫区では静岡県焼津市だけでなく昨年9月には兵庫区北西部の4地区の防災福祉コミュニティが、愛知県刈谷市の自主防災組織の方々の視察研修を受け入れています。

このように神戸市内だけでなく、他都市の自主防災組織の方と交流を深めることは、お互いの活動に新しい風を送り込むことができるのでとても有意義な活動であると感じております。神戸を訪れた他都市の自主防災組織の方々からは「これをきっかけにお互い交流を続けていきたい」といううれしい感想も聞くことができました。

今後もこのような機会を設けていければと考えております。

(兵庫消防署 西尾裕子)

